

## 一般社団法人 日本写真測量学会 関西支部

### 『第20回 若手技術者・研究者による技術研究発表会』開催報告

日本写真測量学会関西支部では、2024年9月13日（金）に『第20回 若手技術者・研究者による技術研究発表会』を開催しました。今回は、大阪会場の大阪公立大学 I-site なんばと東京会場の東京農工大学府中キャンパスの2つの会場をリモートで接続する形式で開催しました。参加者は、大阪会場で44名、東京会場で12名でした。本発表会は、空間情報の生成・利用・応用のあらゆる分野に携わる35歳以下の技術者・研究者の発表技術向上と研究発展に資することを目的としており、さまざま応用分野でのユニークなテーマで19件（大阪会場から14件、東京会場から5件）の発表と活発な質疑応答が行われました。

プログラムは、①研究に着手したばかり、あるいは研究の方向性の検討段階での発表の「萌芽的研究」（セッション1）、②実務業務内容等の報告、新技術の利用、実務を通じてこれまで経験されてきたことや法規制度等に対する論説を対象とする「研究・技術報告」（セッション2,3）、③論文等の執筆に向けた今後の取りまとめについての発表及び討議する「研究・討議」（セッション4,5）の3つのグループで構成されています。また、発表・質疑の時間を1件につき20分としており、活発な討論ができる点も本発表会の特徴です。なお、今回は、スリランカにて開催されるアジアリモートセンシング会議（ACRS 2024 in Sri Lanka, 11/17-21）での発表予定者より、英語によるプレゼンテーションが3件ありました。

「萌芽的研究」（発表：12~15分、質疑応答：5~8分）では、まだ研究半ばの段階でありながらも、背景や目的の設定、データ処理や解析手法、結果および考察に至るまで、丁寧に分かりやすくまとめられており、今後の展望まで言及されていました。今後の研究発展を期待して、有意義なコメントをたくさんいただきました。「研究・技術報告」（発表：10分、質疑応答：10分）では、能登半島地震による建物被害度の推定への多波長 SAR の活用事例、SfM-MVS 技術や UAV レーザ測量を用いた盛土部の分析に関する事例、携帯端末による水路の 3D 計測や自己位置推定の精度に関する検証事例、DEEP センサによる航空レーザ測深性能の検証に関する報告などがありました。会場からは多くの質問や指摘などがあり、非常に充実した時間となりました。「研究・討議」（発表：15分、質疑応答：5分）では、3次元点群データなどの3次元データを活用した研究から、深層学習を活用した地盤変動モデルや空き家推定モデルの開発、都市や人間行動の分析など、幅広い分野での発表が9件ありました。質疑応答では、あえて厳しい質問を投げることもあり、発表者との活発な意見交換ができました。発表者の皆様の今後のご活躍を祈念いたします。

発表会の終了後、本支部役員の審査に基づいて、以下の方々に「優秀研究発表賞」と「国際学会発表奨励賞」を熊谷樹一郎支部長より授与しました。

本支部では、これからも本発表会を継続していく予定です。支部役員一同、より多くの若手技術者・研究者による発表をお待ち申し上げております。

## 優秀研究発表賞

栗原 茜（京都大学大学院）

山川 蓮輝（国際航業株式会社）

## 国際学会発表奨励賞

白石 彩乃（摂南大学大学院）



大阪会場の様子